



平成 25 年 2 月 22 日 第 2 卷(第 45 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目 次

1. 現地支援活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部からのお知らせ
4. 事務所感想文



地域医療センターより港を望む

*** 1. 現地支援活動報告

活動期間:2013年 2月4日~2月8日
鈴木 弘二(静岡県 三島共立病院)

おっかけのケース訪問をさせて頂きました。当時の悲惨な様子から復興した様子(自宅)は見られましたが、外面上ではわからない内面上の精神的サポートを要するケースがいくつか見られました。クライアントの立場に立った支援活動やクライアントの生活背景に立った支援活動が必要と感じる場面がいくつか見られました。また、コミュニティーが破壊された中で、今後の活動は、以前のコミュニティーをどう再構築するのか、できなければ新しいコミュニティーを構築するシステム作りが必要と思いました。

<参加を検討している方へのメッセージ>

参加した事により何かが得られると思います。復興に向っている人々に対してソーシャルワーカーとして何が出来るのかを大切にしてください。



女川地域医療センター 津波の記録

活動期間:2013年1月29日~2月4日

岡田 矩行(大阪府)

1 週間は非常に短く感じた。大阪に帰った後に 1 週間を振り返り自分が何ができたのかと考えるが、はっきりと何かができたと答えることができない。

現地では、電話対応や自宅訪問をした。一本の電話で終わったケースも合わせると全部で 10 数件程。その中には色々な人がいた。私をいぶかしがってすぐに電話を切る人、私が電話したことに対して感謝をしてくれる人、突然来訪した私をもてなしてくれる人、震災当時のことを思い出すように話してくれる人、本当に人それぞれであった。

私はその人たちに触れることによって多くのことを学ばせてもらった。震災の時や震災から今日に至るまでの被災者の心境や、被災者でしか分からない苦勞等。それはずっと大阪にいては決して聞くことができない話である。

その話を聞くことによって、それが聞かせてくれた人への支援になっているのかと聞かれると分からない。しかし、それを聞くことによって私の力には必ずなっていると感じる。それを今後どのように活かすのかは自分次第である。私はいつか再び石巻市に戻り、その時こそこの 1 週間で得た経験を活かし、医療ソーシャルワーカーとして少しでも支援が行っていったらと思う。

<参加を検討している方へのメッセージ>

自分ひとりですることなんて限られています。しかし、自分の電話一本、訪問一件で喜んでくれる人はいます。それが専門性があるのかと疑問を感じるかもしれませんが、なにも活動の全てに専門性を帯びていないといけないと考える必要はないのではないのでしょうか。ただ現地の人と話をする為に来られてみてはいかがでしょう。それで喜んでくれる人は必ずいます。そしてそのような方と話すことによって、どのような形かは人それぞれですが、将来の自分の力にも必ずなります。だから気負わず参加してみてください。

*** 2. 現地感想文

*** 中井 正江(群馬県 前橋赤十字病院)

日本協会の災害支援活動は今回で 3 回目になります。1 回目、2 回目は遊楽館での支援活動でしたので、在宅支援活動は初めての参加でした。3 日間という大変短い期間で、どの程度の支援活動ができるか、せめてご迷惑をかけないようにしたいと考えていました。

1 日目、現地担当の富永さんにオリエンテーションをしていただき、在宅支援活動の要フォロー者の方のケース記録を閲覧、午後には訪問に出掛けました。1 軒目は不在で会えませんでした。2 軒目はいらっしゃり、お話を聴くことができました。2 日目、日曜日ではありましたが、活動の許可がいただけ、2 軒訪問しました。牡鹿半島の寄磯浜、その後釜谷(大川小学校の校区)に行きましたが、いずれも十数件の集落にあり、地縁・血縁関係のある地域でした。石巻中心部からは 1 時間半以上移動にかかりました。3 日目には、1 日目に不在だった方に連絡をすると自らサポートセンターを訪ねてくれて、面接することができました。結果的には訪問 3 件、来訪 1 件、電話のみ 1 件、計 5 人の方々に関わらせていただくことができ、ほんの少しのお手伝いになったかな、と思います。

関わった方皆さんが、こちらの関わりに対しては非常に好意的でした。中にはご親族を亡くされた方もいらっしゃいましたが、それぞれ日常を取り戻し、以前とは異なった新しい日常を築いており、人の歩みの遅しさを感じました。

現地担当員の皆様におかれましては、細やかなご配慮をいただきまして、大変お世話になり、ありがとうございました。支援のバトンをみんなで繋いでいきたいですね。
(活動期間:2013年2月16日~2月18日)



津波到達高より上の家は残され、
下の家は流出・更地に

— 現地石巻 photo —

*** 3. 災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

***現 地

現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

3月の協力員さんの活動参加期間に若干の空きがあります。

ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

2月中旬以降、ご応募されて活動に参加される方には簡単な資料を郵送しております。活動カレンダーを掲載しておりますので、ご覧ください。

***事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いませんので、ご協力をお願い致します。

【2.災害対策本部会議】

2月の災害対策本部会議は3月1日(金)19:00~協会事務所にて開催します。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』の販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



***注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。
現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



*** 4. 事務所感想文

*** 2/18 依光則子（現地担当）

昨日は「バトンⅡ」の編集会議、作業もいよいよ本格化します。今回の冊子も、歴代の現地責任者の方や協力員の方々、それぞれ支援活動に込めた思いが凝縮される内容になればと思います。同時に、予定通り作業が進んでいくかどうか、責任を感じます。

*** 2/18 金子 小夜子(現地担当)

簡単には完成しなかった活動に参加される方のための資料でしたが、本日は 5 名の方に公文書、ボランティア保険の連絡カードとともにオリエンテーション資料として郵送いたしました。一安心です。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 2 月 22 日 第 2 卷 45 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

